

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和05年03月02日

計画の名称	歴史的風致形成建造物を中心とする街なみ環境の整備													
計画の期間	平成30年度 ～ 平成34年度（5年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	京都市													
計画の目標	当地区は、職住共存の形態を維持し、歴史に根ざした独特の街なみや生活文化を有するとともに、江戸時代から続く老舗店舗などが存在している地区であり、同地区には歴史的風致形成建造物である市役所本庁舎がある。 同地区の歴史的な風致を形成する重要な構成要素であり、京都市民のシンボルである本庁舎の保存・改修を図るとともに、周辺道路の美装化等を進めることで、同地区の街なみ環境の維持・向上を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		1,367	A	1,367	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29年度末	H32年度末	H34年度末
1	本庁舎の保存・改修及び周辺道路の美装化等の実施による良好な街なみ環境の形成によって得られる市民の生活実感の向上			
	本庁舎の保存・改修及び周辺道路の美装化等の実施による良好な街なみ環境の形成によって得られる市民の生活実感の向上	66%	67%	68%
	本市総合企画局が毎年実施している「京都市市民生活実感調査」における設問「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある」の項の満足度			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	京都市	直接	京都市	－	－	街なみ環境整備事業	歴史的風致形成建造物等整備	京都市	■	■	■	■	■	1,367	1.43	－
											小計						1,367		
											合計						1,367		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
・評価実施主体：行財政局総務部庁舎管理課 ・評価に活用した評価制度：京都市市民生活実態調査	令和5年3月
	公表の方法
	本市ホームページ（京都市情報館）に掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	「京都市市民生活実感調査」における「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある」（R3年度以降は「豊かな自然的景観、歴史的景観が守られている」）の質問に対する満足度は、事業開始後ほぼ毎年増加していたが、H29年度65.8%→H30年度66.8%→R1年度63%→R3年度69.6%→R4年度51.1%と令和4年度において減少した。 ※R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市民生活実感調査を一時休止している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

・今後の方針について、今回整備を行った歴史的風致建造物である本庁舎について、気兼ねなく立ち寄れる開かれた市庁舎であることを市民の皆様を知っていただけるよう、情報発信に努める。

・中間評価について、R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により市民生活実感調査を一時休止したため、中間評価を行っていない。なお、R3年度については、計画終了年度まで残りわずかであったため、中間評価を見送り、事後評価において評価を行うこととした。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	本市総合企画局が毎年実施している「京都市市民生活実感調査」における設問「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある」の項の満足度		
	最 終 目標値	68%	（※定義を「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある」としているが、京都市基本計画の改定に伴い令和３年度から設問が変更となっているため、「豊かな自然的景観、歴史的景観が守られている」を達成割合として評価している。）令和３年度までは、対象者へ郵送により調査票を配布する方法としていたが、令和４年度からインターネットモニター調査へ変更したことにより、回答年齢層に変動が生じ、目標値と実績値に差が生じたものと思われる。しかしながら、令和３年度においては、評価指標が変更となっているものの、当初現況値と比べ満足度が向上しており、社会資本総合整備計画策定時の状況と対比すれば、目標値を達成しているものと考えられる。
	最 終 実績値	51%	